



進言

## 医療問題の解決に向けて

上野 雅 巳



最近、たらい回し事件、

ベッドが満床、  
専門医がいな  
いなど救急医

療には多くの問題が取り上げられて  
います。さらに地域医療を担当  
する医師がいらないなど、日本の  
様々な医療問題はどうすれば解決  
されるのでしょうか。各地域、病  
院ごとに独自で医療をしては必  
ず限界があります。どうすれば  
みんなが安心して暮らせるかを考  
えなければなりません。

どんなに無理のない生活をして  
いても脳卒中、心筋梗塞、呼吸器

病など命に関わる病気にかかりま  
す。また風邪、胃腸障害を含め少  
しでも体に変調を来せば、いつで  
も誰でも医療機関にかかりたいの  
です。交通事故も毎日発生してい  
ます。時間をおくことによつて容  
態が悪化して手遅れになるような  
ことがあつてはいけません。

救急体制、地域医療は地域、病  
院だけに任せておいては無理が生  
じます。住民の数、地域における  
病院・医師の数、また病院内部に  
おける医師の数、診療科、医師の  
年齢構成など様々であります。

解決には医療者全員が救急医療、  
地域医療に関係することが重要で  
す。救急医療、地域医療を特殊な  
こととは考えず、当たり前前の医療  
と認識すべきであると思います。  
その上で各都道府県が中心になり、  
行政指導という形で医療体制を地  
域住民本位の形に仕上げるべきで

あると思います。地域住民を中心  
に考えれば、おのずとどういう体  
制がいいか分かります。県医師会、  
病院協会、大学病院が行政指導の  
下、国民の健康を守るという観点  
でやり抜くしか方法がないように  
思います。

そのために重要なことは、医師  
養成段階である医学部の臨床実習  
で大学として救急医療のあり方を  
示さなければなりません。このた  
めには全国にある80の医学部附属  
病院に救命救急センターを設置し  
て、大学病院が救急医療に真摯に  
取り組んでいる姿を医学生に見せ  
るとともに、彼らにその能力を付  
けさせなければなりません。そう  
することにより地域での患者受け  
入れも向上すると思います。医師  
養成を行っている大学病院で勤務  
する医師が救急、地域医療を認識  
しなければなりません。もちろん

大学病院は他の医療施設では行え  
ない高度医療も行います。

救命救急センターを備える和歌  
山県立医科大学は医学部教育卒業  
臨床研修において高度医療、救急  
医療、地域医療を教育の基本とし  
ていて、研修医の数も全国有数で  
注目されています。これも救命救  
急センターがあるからで、ここで  
育つ若い医師は医療能力も高く、  
地域医療マインドも養われていま  
す。この経験から今回、すべての  
医学部附属病院に救命救急センタ  
ーの設置を進言します。

救急医療、地域医療の中核とし  
ての役割を各県にある大学病院が  
認識しなければなりません。若い  
医師に見せなければなりません。  
そうしなければ、システムづくり  
も生きてきません。

(和歌山県立医科大学卒業後臨床研  
修センター長)